

◆都市・漁村青年交流促進事業

農業青年との交流

山 田 真 之

1. 目的

都市・漁村青年交流促進事業は都市と漁村の相互理解を深め、また広範な知識の向上を図るために漁業者等のグループの代表者を県内又は他県の都市等に派遣し、交流を行う事業である。

昨年度は消費者の代表として調理師の卵である調理師学校の生徒との交流を図ったが、今年は同じ一次産業に従事する都市地区の農業青年と交流し、異なった視点から水産業・農業について考えるために意見交換を行うこととした。

2. 日時及び場所

平成17年3月10日(木)

19:00～21:30

沖縄市農民研修センター

3. 参加者

沖縄県農業青年連絡協議会

会長 島袋善樹

副会長 大城真由美

会員 盛根武優

外間正人

仲宗根正人

久場良一

松永基業

安里慎也

沖縄県漁協青壮年部連絡協議会

会長 比嘉康雅

会員 小嶺仁

柳田一平

事務局 比嘉政次(沖縄県漁連)

仲本(沖縄県漁連)

沖縄県漁業士会

副会長 島袋博幸

沖縄県営農推進課(現:営農支援課)

主任専門技術員 本村隆信

主任

宮城明夫

沖縄県北部農業改良普及センター

主任 座喜味利将

沖縄県水産試験場普及センター

(現:水産業改良普及センター)

専門技術員 与那嶺盛次

技師 城間一仁

小澤明子

4. 内容

各自の自己紹介後、営農推進課本村主任専門技術員をコーディネーターに意見交換が行われた。

流通に関しては、農作物のほとんどがスーパー等のバイヤーからの注文がほとんどでセリにかけられるものが10%以下(価格決定の参考にする)で内地への出荷も多いのに対し、漁船漁業の漁獲物のほとんどはセリにかけられ、ほとんど県内消費されている。これは沖縄の魚の内地での知名度の低さや脂ののりの悪さによるものである。モズクや魚類の養殖に関しては農業のように加工業者や仲買に一定価格で販売され、セリが少数になっている。沖縄は多獲性魚が少ないため、漁船漁業はどうしてもロットが揃えられず、販売促進しにくい状態にある。

流通の経費に関しては、農業の市場手数料は野菜や花など種類によって異なる(8～13%)が、漁業の場合漁協により数%程度異なり(4～6%)、また漁連の市場で販売する際にはそこでの手数料(5%)や荷受業者の手数料(3～5%)も加算される。輸送経費は飛行機を使う場合は農漁業ともそれほど変わらないが、農作物の場合鮮度の落ちが少ないので、船+電車による低コストの輸送も可能である。

消費促進活動としては農業が芋掘り等子供を対象に体験出来る活動が多いのに対し、漁業の

場合現場（船上）には危険が多いため、なかなか思ったように体験させることが出来ない。

自分の仕事がお金になるまでの期間としては、農業の一番短い草花の苗で4週間、野菜で2週間から4ヶ月、観葉植物にもなると半年から5年（平均3年）もかかる。漁業では漁船漁業の漁獲物はセリにかけられ翌日（遅くても1週間以内）にはお金に替わる。長いものでモズク等海藻の養殖で半年、魚類養殖で1～2年程度しかかからない

商品に対する意識としては、農業側は同じ物を大量に生産して安値で販売するよりは、高価でもいい物を作り自分で販売促進していく意識が強い。また、いい物を作ろうとする意識が長い年月をかけて培われているので悪い物流を通させないよう大量廃棄をする物さえ有る（津堅島のニンジン）。漁業の方はまだそういった意識の浸透はされていないところがある。

今後の課題としては農業は定時・定量・一定品質を目指し、味や安心・安全等のPRを行っていくことがあげられた。漁業としては、沖縄の味のPRや食品加工等があげられた。

5. 所感

養殖業というものが始まるまで漁業は狩猟民族の職業、農業は農耕民族の職業であったが、養殖の振興に伴い漁業者にも農業的考えの導入が求められる。また業種の異なる者同士が意見を交換しあえることにより、より新しいことへの挑戦も行えるようになると思う。当初交流会の時間を2時間と設定した際には時間が余らないか不安な面もあったが、実際に行ってみると熱い議論が交わされ時間を延長しても足りないぐらいであった。今後も交流・意見交換を続け、お互いを高め合うことを約束して今回は閉会となった。



意見交換風景



発言する沖縄市漁協の小嶺仁氏



参加者全員にて